

平成20年度 産業建設常任委員会行政視察報告書

平成21年1月22日

- 1・ 日 程 平成20年11月10日（月）～12日（水）
- 2・ 視察先等 京都府南丹市 人口 36,000人 面積 616 k m²
兵庫県宝塚市 人口 222,000人 面積 101 k m²
- 3・ 視察事項 南丹市 「町並・景観保存事業について」
宝塚市 「宝塚市の観光行政について」
- 4・ 視 察 者 一行9名
 - ・ 委員 山田義栄 委員長 高井 保 副委員長
森川 豊 委員 森山一理 委員
高橋禧雄 委員 樋口博務 委員
関 龍雄 委員
 - ・ 当局 滝沢正行 都市計画課参事
 - ・ 随行 石井信一 議会事務局次長

南丹市

【市の概要】

南丹市は、平成18年1月1日に4町（園部町、八木町、日吉町、美山町）が合併して誕生した。

その位置は、京都府のほぼ中央部にあり、面積は、京都府の13.4%を占め、緑豊かな自然に恵まれたまちである。南丹市の北部にある美山町は、若狭街道沿いに開けた集落であり、総面積の94%を森林が占め、耕地は2%の山林地帯である。地区内に存在する茅葺屋根は入母屋造りで、山村民家としての特質を有することから「北山型」と称され、価値ある文化遺産として内外から評価され、平成5年12月8日、全国で36番目の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された。現在は少子高齢化、過疎化が進み、町制施行時（昭和29年）の人口10,000人が、現在約5,000人と半減し、うち3人に1人が65歳以上の高齢者である。

【事業の概要】

「重要伝統的建造物群保存地区選定までの主な経過」

S47 文化庁による集落・町並み調査を実施

S59 地区（集落）の一部を京都府により指定文化財及び環境保全地区に選定。
この時茅葺屋根の保存が話題に上がる。

H元 伝統的建造物群保存対策調査を実施

H2 調査を完了し、報告書を刊行。保存対策について、教育委員会と地区との協議始まる。

H4 美山町伝統的建造物群保存地区保存条例に関する関係機関への事前説明会

を実施し、合意を得る。

H5 文化庁及び国の文化財保護審議会委員による現地視察の実施。

H5.12.8 重要伝統的建造物群保存地区に選定（全国で36番目）

【美山町北伝統的建造物群（かやぶきの里）保存地区の概要】

- ・ 区域面積 127.5ha
- ・ 重要伝統的建造物群保存地区選定日 H5.12.8
- ・ 区域内の家屋50棟のうち茅葺屋根の母屋が30棟存在（残存率日本一）ほとんどが江戸時代中期以降に建築されたものである。
- ・ 母屋のほか、小屋、蔵、神社、門、石垣、地蔵等が伝統的建造物に選定されている。
- ・ 当該地区は文化庁はじめ、農林水産省や京都府の補助事業等を活用し、総額約19億円の公共事業費で防災施設工事（放水銃、貯水槽）や民族資料館復元工事、宿泊体験実習館等の施設整備を実施した。
- ・ あわせて茅や茅葺職人確保の為、茅収納庫の設置や茅葺職人後継者就労激励金の交付等を行ってきた。
- ・ 現在、美山町全体では300軒程の茅葺屋根の家が存在するが、茅葺屋根の保存の為に、屋根の葺き替えや、トタン屋根から茅葺屋根への変更等に対しH6～H18年度までに約3億4千万円の補助金を交付してきた。（屋根の修復費の約80%を補助金で交付）
- ・ その結果、美山町全体での観光客は、H8年度の約44万人に対し、現在では約1.6倍の年間70万人が訪れている。
- ・ （参考）南丹市には日吉ダムがあり、平成10年「地域に開かれたダム」第1号に指定されており、ダム湖周辺は「水」と「緑」をキーワードに、温泉施設や総合リラクゼーション施設等が整備されており、観光面においても活用されている。

所 感

以前宿場町として栄えた福島県の大内宿を訪れたことがあるが、同じ茅葺屋根でありながら、生活面よりも観光を主体とした、手を加えて整備された人工的なまちづくりの印象が強かった。しかし、今回視察した美山町の茅葺屋根の集落は、林業を生活基盤とした山林に囲まれた昔からある自然環境をそのまま残した生活面を重視した「かやぶき屋根のふる里」という印象を受けた。

宝塚市

【市の概要】

宝塚市は、昭和 29 年 4 月に市制を施行した。兵庫県南東部に位置し、面積は 101 k m²で、市街地からは大阪や神戸に電車で 30 分ほどの圏内にあり、JR と阪急電鉄とが平行して整備されていることから、就業者の約 40%が大阪、神戸への通勤者である。市域は南北に細長く、住宅地が広がる南部市街地と、自然に恵まれた北部農村地域に分かれており、市制施行時約 4 万人の人口が、高度経済成長期に急増し、現在約 22 万人の人口を有し、山の斜面を拡充し、大規模な住宅地が形成されている。また、「歌劇と温泉の町」として年間約 860 万人の観光客が訪れる国際観光都市である。

【観光行政について】

主な観光施設としては、大正 3 年に創設された宝塚歌劇、温泉施設としては宝塚温泉の一角にある建築家、安藤忠雄氏設計の水着を着用したまま入浴する日帰り温泉施設、国の重要文化財に指定された年間 350 万人が訪れる、火とかまどの神様、清荒神清澄寺や、140 万人が訪れる、安産の神様、中山寺、鉄腕アトムで有名な手塚治虫記念館、阪神競馬場等があるが、いずれも民間経営であり、市が特に助成しなくとも、年間相当数の観光客が訪れる。

また、平成 20 年度の一般会計予算における商工費の予算額は約 6 億円であり、当市の約 28 億円に比べ、20%にすぎない。現在行政としては、観光面よりは、まず財政力の安定を課題として取り組んでいるとのことである。

【主な観光施設と観光客数】

- ・ 宝塚歌劇 民営 (観客数 年間 110 万人)
- ・ 日帰り温泉施設 (ナチュラルスパ宝塚) 総事業費 4,500,000 千円
当初市営、現在無料で指定管理者に委託
- ・ 手塚治虫記念館 建設費のみ市が支出
管理は手塚プロダクション (観光客数 年間 15 万人)
- ・ 清荒神清澄寺 (観光客数 年間 350 万人)
神社内の美術館の入場料を全額市に寄付している
- ・ 中山寺 (観光客数 年間 140 万人)

所 感

市内には有名な観光施設が多く、特に行政が手を差し伸べなくても、民営の管理体制が確立しており、年間相当数の観光客が訪れるようである。

むしろこのまちの特徴としては、豪華さはないが、洗練された「おしゃれできれいなまち」という印象を強く受けた。(主な建物は宝塚歌劇のような赤い屋根と薄茶色の外壁を主体とした建物となっている)